

い。」

B (♀) 「反抗期って、親が自分の理想像と違うことに気づいたときから始まるかもしれないね。“こうあってほしい”とか、“なんでわかってくれないのか?”とか」

D (♀) 「進路や物事を優しく示してくれて、自分の方向性をプレッシャーなく、選択できるような環境だといいいんだけど」

B (♀) 「でも将来自分がそこまでできるか考えちゃうな。親も同じ人間だし、子育てをしている親自身も成長過程にいるというか、子どもの延長線上なんだから…。メル友に若いお母さんがいて、いろいろ子育てに悩んでるわけ。自分はずっとその子どもと彼女の中間の年頃でどっちの気持ちもわかるんだ。で、自分の母親もこうやって悩んでいたのかなと。」

E (♂) 「自分が“こうしてほしかった”というのを自分の子どもにしてあげられるかな。親って案外、誰も子どもにとって良かれ、と思ってやっているはずだよ」

D (♀) 「今はわかっているつもりだけど、10何年後かにわかっているとは言い切れないよね、大学卒業して、就職して社会の厳しさ、現実を知ることもあるし、仕事でゆとりがなくなって、他人にエネルギーを与えられなくなるかもしれないし」

G (♀) 「子どもの反抗期って、えてして働き盛りの仕事が忙しい時期じゃない。年をとると仕事にゆとりが出てきて、子どもと向き合う時間が出るけど。子どもがかまってほしいときにかまってやれなくて、子が親離れした頃に親の方がかまってほしいということもあったりして」

E (♂) 「たとえ収入を下げても、家族という選択もできる、でも自分が精一杯のとき家族のことは見れないよね。どんなに仕事人間でも 家族のためと思うからこそがむしゃらに働いている、家族がいるから仕事が頑張れるところもあるでしょ。」

B (♀) 「私と仕事どっちが大事なの? マンガに、誰に食わしてもらってると思ってるんだ? の一言で離婚した話があって、夫は仕事に張り合いがなくなって、会社も辞め、どん底の生活になって初めて“実は家族に食わしてもらってたんだ”と気づくというの」

C (♂) 「他人に食わさせてやる気がないなら、家族

を作るべきでないね。」

D (♀) 「今、心の帰る場所持っているかな?」

E (♂) 「家にいるときって、本当の自分って感じだよ。外で自分を作ろうとしているわけではないけど、家と外では違うな。家ではウケを狙ったりなんてサービスはしなくていいもの。逆にくだらないことも気にせず言えるし」

B (♀) 「ペットは? ペットって自分が愛を注げる、それを返してくれる、ある意味、家族の代償行為とも言える。アイボって、兄弟がいなくて寂しくて、TVゲームばかりして人と向き合っていない子どもたちに人と人との関わり、コミュニケーション不足を補うように考えて開発されたんだって」

G (♀) 「心の帰る場所って家族だけなのかな。本当の肉親でなくてもそういう場所が作れればいいんじゃない?」

4 座談会 - 2. “キレル”とは

☆純心という美しさ

C (♂) 「空手の後輩で、高校生でものすごい強いやつがいるんだ。勝つことしか考えていないから、余計なことがぬけていて、ものすごく研ぎ澄まされている。そういう精神状態こそ、美しいと思うんだ。大人になってくると、どうしても打算的というか、手抜きがでてくるよ。高校生くらいは必死っていうか、もうそれだけってかんじ。すべてをかけてるっていう意気込みがある。最近の俺は、ただ猛烈に進むんじゃなくて、引き際とかよんだり、適当に手を抜いて、勝っちゃう。にごってるというか妥協ってかんじがする。」

B (♀) 「にごるっていうか、それも成長なんじゃないの?」

D (♀) 「せっかく“家族”っていう、新しい居場所に気付けたのに、また一つの世界に戻っちゃうの?」

G (♀) 「ただまっすぐなのが、かっこいいとは限らないよね。例えば、混んだ電車のドアが開いて、どーっと人が出てきたとき、その流れに逆らっても意地で立ってて、わきによけないような感じ、がかっこいい?。」

C (♂) 「うーん。例えば、箱根の曲がりくねった道で車のレースをするとする。若いやつはとにかく

が一っとスピード出していく。危険を顧みないというか、なんかぶつかる寸前のスリルみたいにどんどんハイになって、ひたすらスピードで勝負するんだ。じいさんのほうは、ふん馬鹿め、とかいって、ギアチェンジとか駆使して、ゆっくりだけど着実にカーブとかこなしてくだろ。そのうち若い方は車に無理がきちゃう、もしくは事故る。そしてじーさんが勝つ。若いのが自爆するのを待って勝つ。どっちがかっこいい？」

B (♀) 「でもC君はさー、突っ走って、ぶつかって、ああこりゃ痛いってなって、やり直してるんでしょ？」

C (♂) 「でもじーさんの勝ち方って、ずるがしくない？」

G (♀) 「そんなことないよ。いろんな経験つんで得た技術や知識を、勝つために使うのは空手の世界でも必要でしょ？」

C (♂) 「うーん、そうなんだよね。でも、周りが見えてなくて、目の前の相手を倒すことしか頭になくて、もうそれだけっていう感じが、本当に純心で一番強い気がするんだけど。」

G (♀) 「相手を読んだりとか、スキを見たりとか、タイミングをはかるのとかだって立派な技のひとつじゃない。相手を倒すために技を使うんでしょ。考えなきゃ倒せないこともあるでしょ。それが身について上達したと思えばいいんじゃない？」

B (♀) 「バカボン読んだ？ 宮本武蔵のマンガ。武蔵は、最初、闇雲に強くなること、相手を切ることしか考えてなくて、もちろん強かったんだけど、それじゃ成長に限界があった。すぐ壁にぶつかっちゃって。自分の腕に、心が追いついてなかったんだ。相手の痛みとか、自分の心とか、社会とか、人とか、そういうのをたくさん見ていくうちに、賢くなって心も強くなっていくんだよ。そうやって成長した武蔵の方が、ずっと強いと思った。読んでごらんよ。そういう強さ、決してずる賢いとか汚いって感じの成長じゃないよ。」

C (♂) 「でも自分が戦ってるとき、ちょっと余裕もってなめてかかって、フンって感じて勝てるでも、なんか違うんだよねー。」

G (♀) 「それはC君が賢くじゃなくて、どこかでズル賢い思考してるからよ (笑)」

B (♀) 「どこかで知ってるんじゃない？ ただ闇

雲なだけの弱さっていうか。自分が昔そうだったから、相手のそういうところがみえちゃって、どこかでバカにしちゃって、そういう自分がいやなんじゃないの？」

☆ 破壊欲

G (♀) 「さっきのスポーツカーの若い人で例えていたけど、「ハイ」になるってどんな時？」

C (♂) 「物を壊したり、相手をやっつけたり。」

G (♀) 「「物を壊したい」っていうのは？」

C (♂) 「ハイになれるから。ハイなときって、頭が真っ白で、俺の場合は体も使ってるけど、そのせいでいいじゃなくて、もう、かああーっとなってくる。」

B (♀) 「発散してる、って感じ？」

C (♂) 「いや、発散じゃない。別になにかたまってるってわけじゃなくて。とにかくすかっとするんだよね。試合で、相手を殴りまくって、倒れるのを、ハハンって見てる。そういう俺はよくマシンみたいだっていわれるんだけど、強いんだよ。」

B (♀) 「でも、トップの人達で、相手を助け起こす姿、すごくかっこいいと思うけど。」

C (♂) 「試合では破壊の相手は人間だけど、あっさりしてるのがいいんだよ。そしてそんなときすごくハイになれてて、気持ちいい。そういう闘い方って、若くないとだめなんだよね。体が衰えてしまうと、ハイになれるような試合はできなくなっちゃう。」

G (♀) 「勝手にハイになるのはいいけど、それで人殺しちゃう人もいるでしょ。」

C (♂) 「人殺しは別だよ。」

G (♀) 「でもC君にとって、一番ハイになれる瞬間が、人殺しだったらどうするの？」

C (♂) 「いやそれとこれとは明らかに別だよ。」

B (♀) 「私は違いがわかんないわ。」

D (♀) 「もっと色々探してみたら？ いろんな世界をみたら、もっとハイになれることが見つかるかもしれないよ。」

C (♂) 「うん、でも俺は結構多趣味な方だよ。マリンスポーツもするし、音楽とか、色々。」

B (♀) 「芸術は？ 芸術もありえそう。絵を描きながらハイになるひと結構いるよ。せつかくエネルギーがそこにありあまっているんだから、「破壊」じ

やなくてなにか作る方にぶつけるってのはどう？」
G (♀) 「ハイって、例えばコンサートで踊り狂うみたいな感じ？ あれも非日常っていうか、ある種のトランスだよ。そういうのじゃだめなの？」
C (♂) 「体使わないと、発散できなくて。」
G (♀) 「「発散」？ ほらやっぱり何かたまってるのよ。」
C (♂) 「そうか。何がたまってるんだろうなあ」
B (♀) 「少しずつ小出しにして上手に発散できるといいのよね。試合で爆発させたり、物壊すとか、殴る蹴る、って形じゃなくて。」
D (♀) 「そういう穏やかな「発散」の一つに、「家族」があるんじゃないの？」

☆ 逃げ場

C (♂) 「なるほどなあ。あー確かに最近、家が道場以外の居場所だな。」
B (♀) 「狭い世界にこだわるのって、ある意味逃げだとおもうよ。道場にこだわっちゃうのは、道場ではC君の考え方が100%通用する。でも、たとえばこのゼミとか、それは違うよって思う人もたくさんいて、自分の考えが一切通用しない世界もあるわけよ。そこで感じるもどかしさとかがたまから、道場に持ち込んで、発散しようとしているように見えるな。」
C (♂) 「自分の力を試せる場所に行くことって逃げかな？ 例えば、日本の自衛隊にいた人が、そこ

の気質に合わないというか、もっとちがう上を目指してアメリカの軍隊に入った。さらに厳しいのによ？ それは逃げ？」

B (♀) 「うーん、難しいけど。ただ、「強さ」にもいろいろあると思うし。そのぶん「強さを試す場所」もいろいろあるだろうし。」

D (♀) 「狭い世界にこだわっちゃうのはあんまり…。なんか危険な感じもする。」

G (♀) 「もっともっといろいろ探せば、もっといい形で発散する方法見つかるんじゃないかな。」

C (♂) 「いや、いろんなジャンルに興味は向けるよ。ダンスとか、違うからだの使い方もかなり興味はある。」

B (♀) 「ダンス！いいねー。私昔はダンスで発散してた。私は少しでもたくさんの世界を見たいって欲張りだから、確かに一つに打ち込める人、うらやましいし、かっこいいと思う。方々に手をだしすぎて、どれも中途半端だからね私は。でも、例えば格闘技にしる、オリンピックに出るような人達に、まったく周りを見ていない人なんて一人もいないよ、きっと。いろんな世界から学んで強くなるんだよ。それに、ひたすら打ち込める一つを見つけるには、やっぱりいろいろ試さない。もっといい世界があるかもしれないのに、見逃してるのって、もったいない。」

21世紀に向けた思春期保健対策の在り方についての提言

研究協力者 全国性教育団体連絡協議会理事長 田能村祐麒

北海道、奈良県、高知県の高等学校8校で、各学校男女5~8名の生徒が、思春期の性の悩みを中心に2時間以上にわたる、率直な話し合いをもったので、その内容を報告するとともに、思春期保健対策の在り方について提言する。

1. 中・高校生の性行動の問題点と対策

中・高校生の性意識は解放的であり、性行動は活発化しているようであった。多くの生徒が中学生期から特定異性との交際をはじめており、短期間に相手を変えて何人目かの相手と性交を体験している。この場合異性とのつきあいや性交は異性と「一緒にいたいから」性交を、「したいから」という理由で行われている。異性との「つきあい」イコール「セ

ックス」といった状況が見られる。また、男子が交際相手の女子に自分の友だちと性交するよう求めたり、複数の男子が一人の女子と性交するといったことがある。

このような安易な性行動が人工妊娠中絶や性感染症の増加の一因となっていると考えられるが、それには戦後の急速な性思想、性文化の変化がもたらした後遺症ともいえることであって、思春期の保健対策としてはアイデンティティや豊かな人間関係を育てる計画的な性教育の実践が必要である。

2. 中・高校生の人工妊娠中絶・性感染症の増加と対策

自分たちが性交後に月経の遅れを心配したり悩んだり、そういった話を聞いていながらも多くの中・高校生は性交時に避妊をしていない。それには値段や購入場所によりコンドームの入手が困難であるという意見が聞かれた。また愛している相手なら妊娠してもよい。妊娠したら産み育てるという生徒もいる。しかしそのことが高校生にとってどんなに困雑な状況をもたらすかということまで考えてはいない。いずれにしても避妊に対しては積極的ではないし、人工妊娠中絶についても安易な考えが聞かれる。

高校生相互の性交が多いこともあって性感染症の予防に関してはほとんど配慮していないし、性感染症の知識はきわめて薄い。しかし生徒は妊娠・避妊法・人工妊娠中絶、性感染症やその予防法などについて知りたいと望んでいる。したがってこれらの内容について具体的な指導を行う場と機会を整えていくことが急務である。また性の相談活動の活発化も望まれる。

3. 性情報の影響と対策

生徒たちはテレビや友人の他、コンビニで販売されているファッション雑誌やマンガ本などから性知識を得ており、最近ではインターネットを利用している生徒も増加している。また、ビデオ付きテレビを自室に持ち、アダルトビデオを見ている生徒が多く、男子はそれによつて様々な性行動を学習している。女子の関心は低いようである。

なお高校生の間にも携帯電話が普及してきており、携帯電話を利用した男女関係が問題になっているが、携帯電話に性行為を映した画像や性器の絵が

映し出されることも問題であろう。

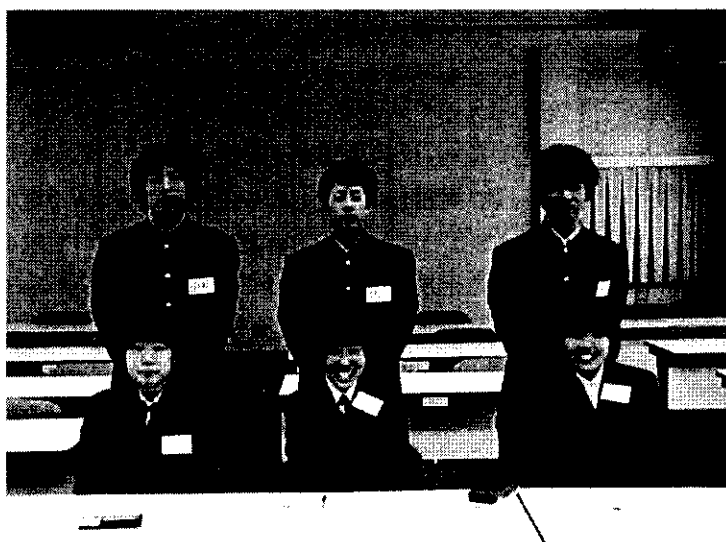
これらのことから、マスメディアの流す性情報に自主規制を望むとともに、児童生徒に対しマスメディアの性情報を上回る性情報を提供するよう性教育の講演会、教育活動、相談活動を活発にするとともに冊子等の印刷物による啓発活動を高めていく必要がある。

以下、高知県、奈良県、北海道で開催された「若者委員会」での議論を、そのまま掲載した。率直な若者達の言葉の中に、社会として、学校として、家庭として、考えなければならない課題を汲み取りたいものだ。

I. 高知県で開催された若者委員会

Q1 : あなたは小学校の頃、性教育(らしき)を受けましたか?

- ・ 渡辺：よくは覚えていませんが、6年生



の終わりの頃、受けたような気がします。先生が本を持ってきてくれて、みんなに配り、読みました。確か「赤ちゃんができて成長していく」という内容だったと思います。

- ・ 藤原：小学校の頃、性についての意識が全く無かったので性教育を受けたかどうか覚えていません。

・ 竹内：高学年の時に道德の時間で、エイズの話聞いた覚えがあります。

- ・ 小松：小学校6年の道德の授業で、妊娠について学習しました。

・ 中村：高学年で、妊娠について学びました。

・ 影山：6年生の時、妊娠から出産までの性教育を受けた記憶があります。

Q2：あなたは中学生の頃、性教育を受けましたか？

・ 渡辺：保健の時間に、男女別れて受けました。内容はエイズのことや、男の人と女の人の違いなどでした。

・ 藤原：内容ははっきり覚えていませんが、エイズについてのビデオを見ました。

・ 竹内：1、2年の保健の授業で、男女の体の違いとか、性交、エイズの事などについて学びました。

・ 小松：保健の授業で、妊娠の過程や避妊、エイズについてはビデオで学習しました。

・ 中村：講演のようなものは受けてませんが、主に2、3年の保健の時間で、小学校から引き続いての、妊娠、エイズ、男女交際について学びました。

・ 影山：2年生の保健の時間に、エイズの話聞いた覚えがあります。

Q3：あなたは高校生になって性教育を受けましたか？

・ 渡辺：まだ受けていません。2年になったら受けると聞いています。

・ 藤原：まだ受けていません。でもそのうち受けると思います。

・ 竹内：2年の保健の授業で、性の事について受けました。講演などで、エイズの事や、男女の事、性についての全般について学びました。エイズについての講演はとても影響を受けたし、保健の授業で学んだ妊娠の事はとても身近に感じました。

・ 小松：保健の授業で、妊娠から出産、避妊などについて詳しく学習したし、国立病院の婦長さんを講師に迎え、エイズや避妊についての講演を聞きました。

・ 中村：小学校、中学校に引き続いて、妊娠やエイズ、男女の交際についての学習にプラスして、自分達と同世代の人工妊娠中絶の割合が増えてきている事、またエイズの感染の過程から影響につ

いてなどプラスアルファになるような学習をしました。

・ 影山：2年の保健の授業で、子供ができるまでの過程、エイズについてなどの講演がありました。

Q4：あなたが現在まで受けた性教育は、役に立っていると思いますか？

・ 渡辺：まだ性教育は少ししか受けてないので、具体的に役立っているかどうかはよくわかりません。それに、どこからどこまでが性教育なのかもよくわかりません。

・ 藤原：そんなに詳しく習っていないので、よくわかりません。でも意識はあります。

・ 竹内：以前より「エイズ」という言葉を見聞きすると、よく考えるようになってきているので、意識はしていると思います。

・ 小松：妊娠や避妊について、ある程度の事は知識として身に付いていると思うけど、まだまだ未熟だと思います。

・ 中村：妊娠や出産、男女交際、エイズの事など、特に異性との接し方、考え方を学び、役立っていると思います。

・ 影山：身近に妊娠の事などが無いのであまり役立ってはいないです。意識はあります。

Q5：あなたの性に関わる行動や意識に、どれが(誰が)影響を与えましたか？

・ 渡辺：テレビや先生、友人などです。テレビは、高知の人工妊娠中絶についてを高校生が喋っているのを見ました。友人は話しているのを見聞きます。先生は授業で少し教えてくれました。

・ 藤原：ドラマやニュースなどで見る事が多いです。昔ドラマで、援助交際をして、その相手がエイズだったからその子もエイズになってしまい、苦しんでいた場面を見た事があります。そういうのを見たり、中学校の時の性教育で影響を受けました。

・ 竹内：先生、テレビ、雑誌などから影響を受けました。特に大きいのは友達からの影響です。

・ 小松：今まで学習してきた事は勿論です

が、周りの友達からの影響が大きいです。

・ 中村：主にテレビ、雑誌、ニュースなどからの影響が強いです。現実的なものとして、保健の授業での先生の話に強く影響を受けています。

・ 影山：テレビや雑誌、周りの友達などです。

Q6：あなたは性について悩んだ事はありませんか？

・ 渡辺：悩んだ事はありませんが、「難しいなあ」「大変やあ」と考えた事があります。

・ 藤原：恋について悩んだ事がありますが、性について悩んだ事はありません。

・ 竹内：性については深く悩んだことはありません。恋愛については悩んだ事があります。

・ 小松：特に悩んだ事はないですが、恋愛については少し悩んだ事があり、今も少し悩んでいます。

・ 中村：特になし。

・ 影山：性についてはあまり深く考えないので悩みはありませんが、恋愛で、少し悩んでいます。

Q7：あなたは性について、誰かに相談できますか？

・ 渡辺：友達ならある程度はできるけど、それが本当に正しいのかどうか疑ってしまうかもしれません。

・ 藤原：何でも言い合える親友に相談します。親友だと自分と同じ立場で聞いてくれると思うからです。

・ 竹内：恋愛の事については友達に相談します。性交、妊娠、エイズの事などについてはきっとできないと思います。最終的には自分で解決していくと思います。

・ 小松：親や先生には相談できないけど、仲の良い友達には相談できると思います。

・ 中村：悩んで相談する機会がありませんでしたが、この事について友達には相談できると思います。

・ 影山：性については相談しませんが、恋愛の事でよく友達に相談しています。

Q8：性についての相談は、誰にすれば理想的だ

と思いますか？

・ 渡辺：理想的なのは親です。でも恋愛の話や性的話はした事ありません。親もあまりしませんがありません。

・ 藤原：理想的なのは人生の先輩である親だと思います。

・ 竹内：恋愛については友達でいいと思いますが、性交、妊娠、エイズなど、自分の体に関わる事は医者など専門の、きちんと理解して答えてくれる人がいいと思います。

・ 小松：きちんと知識のある人に相談するのがいいと思うし、同じようなことで悩んだ経験のある人に相談するのも良いと思うけど、実際にはやっぱり友達にする事が多いと思います。

・ 中村：理想的なのは身近な親だと思いますが、相談しにくい事もあるので正しい知識を持った友達や医師などあざいと思います。

・ 影山：恋愛については友達に相談したらいいけど、自分の体については、正しい知識を持つてる病院の先生に相談したら良いと思います。

Q9：あなたが現在受けている性教育の現状をお聞かせください。

・ 渡辺：性教育らしきものは今は受けてません。だから現状はわかりません。

・ 藤原：援助交際などを軽い気持ちでしていると、エイズになってしまったりするのを知りました。

・ 竹内：保健の授業が殆どで、あとは講演などです。性教育の授業が少ないので、その時は意識できても直ぐに頭から抜けているのが現状だと思います。

・ 小松：保健の授業で、妊娠、出産、避妊などについて学習しているし、授業が男女別なので、男女の意識の違いや、男として妊娠、出産の場合に、自分に何が出来るかなどを学習している。

・ 中村：主には保健の授業などですが、年に1回あるかないかくらいで、あとは講演者を招いての話を聞きます。機会が少ないと思います。

・ 影山：学校の保健の授業と、時々他から人が来ての講演会があるくらいです。

Q10：あなたが今後、性教育を受ける時はどの

ような性教育を受けたい
ですか？

・ 渡辺：最低限当たり前に知っておかなくてはいけない事を教えてもらいたいです。それと先生の恋愛話などを聞いてみたいです。私達よりずっと年上で、色々な経験をしていると思うので。

・ 藤原：知っておかなければいけない事を、解り易く、時間をかけて教えてもらいたいです。

・ 竹内：性に対しての男女の考え方の違いなどについてもっと詳しく知りたいです。将来とっても役に立つと思うので。避妊について、体に与えられる影響などについてももっと詳しく知りたいです。

・ 小松：これからの生活に何らかの形で役立つ知識を身につけ、実践できるような教育を受け、学校などで、もっと性教育について学習する時間を多くしてもらい、知識として身につけた事を少しでも忘れないように身につく性教育を受けたい。

・ 中村：機会があれば、自分の知っている知識以上のもの、これから先の人生で役立つような知識を身につけたい。

・ 影山：これから生きていく上で、必要な事、役に立つ教育を受けたいです。

Q11 : 本県では若年層の人工妊娠中絶が大変多いのですが、少なくする

方法はないのでしょうか？

・ 渡辺：学校などで人工妊娠中絶の事を、今よりもっと勉強する。そして色々な知識を理解し、1人1人が意識を高めていく事が必要だと思います。

・ 藤原：妊娠してからでは遅いので、きちんと本人が考えて行動するべきだと思います。少なくするには、本人の気持ちや意識だと思います。

・ 竹内：もっと1人1人が性の事について知って、きちんと正しく理解しない限り減ることはないと思います。

・ 小松：人工妊娠中絶についての知識をみんながしっかり持って、そのことの重大さを考えれば1人1人が避妊についてもっと大事だと考え、避妊を心がけるようになると思います。

・ 中村：1人1人の正しい知識、特に個人の自覚を必要とすると思います。

・ 影山：避妊の正しい方法をちゃんと知って、人工妊娠中絶がどれだけ大変な事かを知る事だと思います。

Q12 : あなたの、学校や行政に対しての提言や、意見、お願い等が

ありましたらお聞かせください。

・ 渡辺：性の授業があまり面白くなくてすぐに忘れてしまうので、頭に残るような授業をして欲しいです。

・ 藤原：自分たちのためになる事を、詳しく、時間をかけて教えてもらいたいです。

・ 竹内：普通の授業を受ける以前の問題であると思うので、もっと性教育についての時間をとってもらいたいです。先生ともっと色々話したい事があるのに、いつも時間と場所がないので、つくってもらいたいです。

・ 小松：学校は勉強にばかり力を入れていて、性教育を大切な事だと思っているのかどうかわからない。もっと性教育に力を入れてもらいたいです。

・ 中村：講演などを受ける機会が少な過ぎると思うので、そういった機会を増やしてもらいたいです。また県としても個人個人に任せず、積極的に行動に出て欲しいです。

・ 影山：性教育は保健の授業でしかやらないので、もっと他に時間をとって教えて欲しいです。それともっとゆっくり、解り易く教えてほしいです。

特別Q : 売買春（援助交際を含む）に対して、あなたの意見をお聞かせください。

・ 渡辺：お金が欲しいからって、自分の体を売る必要はないと思います。そんな事をしてもらったお金でものを買っててもむなしただけだと思います。お金がたまるのに時間がかかるかもしれないけれど、苦労してもらったお金の方がずっと嬉しいと思います。

・ 藤原：私は、いくらお金が欲しくても援助交際とかは絶対にしたいとは思いません。そんな事をして、絶対にいい事なんかはないと思うし、後で後悔すると思います。売買春は無くすべきだと思います。

・ 竹内：はっきり言って、何を考えているのか解らない。ただお金が欲しいだけ、興味だけで、自分の体を犠牲にははいけないと思います。もっと自分を大切にしないといけないと思います。

・ 小松：援助交際という、やってる女子高生とかばっかりが悪いと思われてるけど、実際には買う側の人がいるために、それが援助交際として成り立ってるので、買う側の大人達にも問題があると思います。

・ 中村：いい事だとは思わないけど、誰かが止められる訳ではないので、1人1人個人の問題だと思います。周りがどうこう言う事ではないと思います。ただ、売買春のように職にしているのはこれから1人の人間としてみんなが考えていかなければいけない問題だと思います。

・ 影山：いい事だとは思わないです。売買春は自分を売ってお金を稼ぐ事なので、僕は賛成できません。もっと自分を大切に、ちゃんとしたお金の稼ぎ方をしたらいいと思います。

Q. 個人個人が現在考えている問題を自由に語って下さい。

・ 竹内：私は九州の大分でおこった、17才の少年が近所の家族を殺した事件について話します。その少年は風呂場を覗いたと勘違いされて近所の夫婦を殺しましたが、その少年の、その時の心理状態はとても不安定だったと思いました。本来ならばそのような行動はおこさないけれど、少年に精神的に何か大きなものがあって、その時に勘違いされて殺意に走ったと思います。殺したとかのことから離れて、その少年の家族の事を考えたらとても悲しくなりました。報道とかは、子供が殺した、殺した、と騒いでいたけど、その少年にも家族があって、その少年の思いを考えたら許せない思いでいっぱいでした。そういうふうな17才で殺人をおかすとか。(15才とか)きつと何か理由があってやってしまう行動をやってしまう気持ちはわかる、と言えは嘘になるかもしれませんが、同じ世代を生きている自分としては、そういう事を身近に感じておかなければならないと思いました。

・ 小松：人工妊娠中絶について普段考えている事を話したいと思います。僕らが住んでる高知

県は人工妊娠中絶率が全国で一番です。この事は僕も新聞を見て知ったんですけど、全然知らなくて、新聞を見た時のショックはとても大きかったです。まさか高知がそんなになっているとは思ってもみなかったの、すごく意外でした。けど、身近でおきるということは色々な理由があると思うんですけど、その理由の中には、何も考えなしに避妊も何もなしに子供をつくってしまったとか、そういうのもあるとおもうんですけど、経済的な理由とか、20才に満たない時に子供ができれば、もしその子の周りの人の目とか、そういうのも大きいと思うし、実際親と話した事があるんですけど、やっぱりそういうことはしないでほしいと言われたことがあるし、だから、人工妊娠中絶をするということは、1人の命を奪うという事で、重大な事で、何とっていいのかわからないけど、したくてした、という以外にも、本当は産んであげたかったけど、色々な理由があって産めなかったとか、そういうことが色々重なってそういうことが起きてると思うけど、僕の周りでそういう人がいないので実感としてわかないのですけど。もっと人工妊娠中絶の本当のところとか、詳しいところを知って、そのことがこれからどうなっていくか、見ていきたいと思っています。

・ 中村：少年犯罪について個人的に考えた事があります。17才問題として、最近やけに多くの事件が起きていますが、はっきり言ってマスコミが大きく取り上げ過ぎだと思います。おそらく17才の少年の犯罪が増してきたのは、そのマスコミの影響がかなり大きいと思います。「少年、少年」と言って、未成年を成人とは何か別のもののように扱っている社会が17才問題を大きくした原因の1つではないのでしょうか、と考えています。

・ 影山：自分の親をバットで殴り殺す事件について、ニュースであまり詳しくしてないのでその少年について詳しくは解らないけど、自分の親を殺すには何か理由があると思う。だからその少年だけが悪いというのは間違っていると思います。心のどこかに親を殺さなくてはならない何か、があって、その心のつかえたものを取り除いて行かなければいけないと思います。犯人を捕まえて終わり、ではなくて、その少年がもう一度ちゃんとした人生を暮らせるようにしていかなければいかな

いと思います。

・ 藤原：私は今、多く起きている中高生の殺人犯罪などについて思うことがあります。私は、その少年や少女達の事をもっと大人達が理解してあげると良いと思います。その少年や少女達が、どんな風に考えているのかという事を、親身になって聞いてあげるときっと少年や少女達は心を開いて話してくれると思います。 罪を犯した少年や少女達の事を「そんな事をする子じゃなかった」みたいな言い方をする大人達は、その子達の事をちゃんとわかってあげてたのか、と不思議に思います。

・ 渡辺：私は先日、少年犯罪のテレビを見ました。そのテレビは生放送で、ファックスも数多くきました。そのファックスで送られてきた内容は、

Ⅱ. 奈良県で開催された若者委員会

1 期日 第1回 平成12年10月31日(火)

第2回 平成12年11月14日(火)

第3回 平成12年11月28日(火)

2 場所 奈良県立榛原高等学校 教育相談室

3 参加者 高校3年生男子3名と高校3年生女子3名 計6名

4 司会者 奈良県立富雄高等学校長藤田康子先生

5 経過及び内容

(1) 第1回

・ 自己紹介—自己アピール・部活動・家族・彼氏(彼女)の有無等

・ 趣旨説明

・ 学校は楽しいですか? どんなときが楽しいですか?

友達に会えるのが楽しい。授業は体育が楽しい。

・ 今、よく読む本は?

ファッション・マンガの本が多い。

・ 性の情報はどこから手に入れているの?

女：ファッションの本の中にも多く載っている。

女：友人からで、内容はいろいろある。その際に、悩みを聞いてあげることもある(答えることもあるが、単に聞いてあげるだけのこともある)

男：中学時代は先輩からもあった。

男：本の回し読み(誰の本かは分からない)本の立ち読み(1人ではしないけれど、集団でコンビニ

「人を殺してみたい」とか、「自殺したい」というものが数多くありました。私はこれに大変驚きました。でもそのファックスで書いてきた人全員がそんな事をしたわけではありません。今まで犯罪を犯してきた17才達は余程の心理状態だったと思います。ファックスの中の内容で印象に残ったのは、ある男の子がずっと悪い事をしていて、お母さんが「もし人を殺そうと思ったら、まずお母さんを殺し!」と言ったそうです。それでその少年は、今までの自分を改めたそうです。その少年のような家族が日本中で多くなれば、そんな悲しい犯罪は少なくなっていくと思います。

で)

・ みんな自分の部屋があるの?

男3人、女2人は、自分の部屋にビデオ付きテレビがある。

・ アダルトビデオを見たことがありますか?

女：1人で見るのは気持ちが悪い。みんなで見て、笑いのネタにする方がいい。

男：1人で一生懸命見る。みんなで見るものじゃない。

・ インターネットは?

男：有料になる前に止める。プリントアウトすることもある。部屋に貼ってあるものもある。

・ 携帯電話は?

みんな持っている。

女：誰でも、どこでもメールを見ることができる。最近は、Sexに関するメールが多い。メールアドレスで呼び出し、転送することもある。メールを消すこともできるが、残してある。顔は写っていないが、最中の映像が出てくる。動くから気持ちが悪い。女性の性器が描かれている。絵だから面白い。人間だったら引いてしまう。

・ 女性の性器を商品化していることをどう思いますか?

女：自分自身のものではないから、何とも思わない。面白い。(?)

女：街頭で配布しているテレクラのティッシュの中に、写真が入っている。

・ テレクラに電話したことは?

女：女性専用はフリーダイヤルで男の人が出る。

男：男性専用は有料で女の人が出る。ダイヤルQ 2は、はじめに18才未満かどうか聞かれる。18才以上と言う自分に合う人がいたら電話する。

女：援交（援助交際）を求められることもある。場所、車種、服装携帯電話の番号をいって、待ち合わせる。男の人は車で来るので、遠くから見てチェックする。お金のためと割り切って、援交（援助交際）をする人もいる。

（第2回）

— 中高生がSEXすることをどう思いますか？ 良いとか、悪いとかではなくて…。SEXするとどんな問題があるかな？

男：子どものこと

女：性病になるとか…。

女：妊娠するとか…。

女：エイズに感染するかもしれないとか。

— 他にもっとない？ そんなことを考えた上でやるの？自分だけはならないと思ってるの？

女：自分の周りでなっている子がいないから、大丈夫かなと思ってる。妊娠したとかは聞くけど、堕ろしたりしてる。性病とかは聞かない。

男：気がつかないだけと違うか？

— みんなは妊娠したら堕ろせば良いけど、性病とかはちょっと怖い、という感覚かな？

女：堕ろしたら良いとは思ってないけど…、実際にそうになってないから分からない。

女：今の状況なら堕ろすしかない。

女：子どもができたら産む。

— 子どもができたら産む？ 産むとなったら、今、学校にいる身分で、子どもを産むことができるかな？

女：今できたら、学校に隠して通う。

— おなかが日に日に大きくなっていくのに、隠すことができる？

女：今、3・4ヶ月やったらバレるほどにはならない。

— 卒業する頃だったら良いけどね。2年生や1年生だったらどうする？ そうなったら学校を辞めるの？

女：辞めて、産む。

男：卒業する必要はない。

— 子どもを育てられるということ？ 育てたい

ということ？

女：頑張って育てたい。

— そこには、乗り越えなければならないことがあるけれど…。

男：お金のこと。

— お金は誰が出すの？

男：親。

男：絶対無理!!

女：何で？ 自分の責任で妊娠したのに…。

男：俺は、産めへんもん。

女：産まさないの？

男：うん。子どもかわいそうやもん。めっちゃ貧乏やで？ たぶん。

女：でも、子ども堕ろしたら…。

男：産まれてきて、何年も苦しい思いするのはかわいそうや。だって、意識ないねんで!!

女：知ってる人で、子ども堕ろして、もう産めない体になってるから…。

— 自分が産みたいと思った時に産めないのね。その人見てたら、産める時には、絶対産みたい？

女：もし堕ろして、自分には、次に子どもはできないといわれたら、後悔する。立ち直れないわ…。

— それは、何で産めなくなったのかしら？

女：詳しくは知らないけど…。（子宮の中を）ほじくったりするから…。

— そうは（掻爬）するのに、失敗したのかな？

女：そこまでは聞いてないけど…。

— 何回もしたのかな？

女：2回。

— それで、絶対に産みたいというわけやな？

女：勝手に、子どもつくったわけやから…。そんなんで、命…、殺すのも…、勝手すぎる。

— 好きな人とSEXする場合に、子どもが産まれるということは、分かっているのに…。産まれない方法はとらないのかな？ 考えないの？ 二人では…。

男：ゴム

女：ゴムつけるとか…。

女：ゴムだけやなあ。

男：金ないから、ゴムしかないやろ。

男：ピルとか、あるのちゃうの…。

— そんなこと（知識）は、どこから仕入れるのかなあ。

女：学校の授業とかテレビ。
女：新聞・雑誌。
— それは成功した例が載っているの？ 100 %
ですよ、とか？
女：100 %安全ということはないよな。
— 100 %安全ということはないことやろ？ だ
けど、好きになったらするやろ？ なぜ、するのか
な？
女：本当に好きだから。絡み合いたい。
女：愛を確かめたい。
— 男子はどうなの？ 男の側から仕掛けるの？
女：でも、絶対、男から手を出してくる。
— その時に、『私は愛していますけど、イヤです』
とは、言えないのかなあ。
女：嫌いやったら、しないけど…。
女：好きやったら、『何でもあげるわ』って、答
えてあげたい。
— 男の人はどうですか？ 好きやなくてもSex
できるんやろう、男の人は。
女：男はできるねん。
女：関係ないねん。やりたかったら。
男：出さなあかんねん。なッ。
女：男は、別に、子どもとか、できても逃げれる
から、関係ない。
女：『あっ、そう』みたいな…。
男：違うって！
男：みんながみんな、そうとは違う。
女：でも、そういう人が多い。今。
男：やあ、そんなことはない。
女：女は、できたら…。
男：求められたら、やられるやろ？
女：好きな人やったら…。
男：ほらな！
女：だから、女やったらさあ、できて傷つけられ
るやん。だから…、こわごわやけど…。
女：男は、いっぱい出しても関係ない。
女：自分に、何も害がこないやん。
男：それぐらい許してくれ。
男：子どもできたら、必死こいて働く。
女：でも、できたら、絶対に『産め』とは言わな
い。『墮ろせ』って言う。
男：年が年やから…。 若いから…。
女：でも、好きじゃない子やったら、『産め』と

は言わへんやろ？
男：分かれへん。(分からない)
— 自分じゃなくても、他に、好きじゃなくてもや
ってる子はいるの？
男：それは、いっぱいいてる。
— 『何回やった！』ていうのが、実績なんやな。
女：女の子と男の子が遊ぶのに、男の子は5人ぐ
らい来て…。一人の女の子がまわされる。誰の子ど
もか分からないので責任がない。逃げる。そして捨
てられる。
女：カづくで、やられる。
女：遊びに行くのが、間違ってるけど…。
— 遊びの道具に使われているのかな？
女：カップルで来ているのに、男の子が、その友
だちに『ええで、やって』て言う。彼氏の友だちや
から、女の子も信頼しているのに…。
女：一緒に遊んでいて、やるだけやったら、パイ
パイ。そうして別れていく。
女：本気でつきあっているように見せかけて、実
は、みんなやりたいから…。『女、連れてきてよ』
になって…。
— 男の人はそれを聞いてどう？ 男の人は、そん
な傾向になってるの？
男：みんなそうじゃない。
男：僕らはそんなんじゃない。
— あなた方は、好きな人としてしかSex できないと
いうことね。そういう男性もいるということは、男
性としてどうなの？
男：男の方が悪いことになっている。
女：どっちが悪いということではないが、女もし
っかりしていたら、そういうことにはならないけど、
どっちかと言えば、男の力に負けるから不利や。
男：そんな時だけやん。
男：やられていると言うけれど、女はからだを武
器にしている。ソープとかで働いたり…。
女：それは、そうするのが仕事。高校生は、やる
ことが仕事じゃない。
— 高校生としての本分があって、男女交際の一環
として。そういうものがあるという現実を見ている
のやな。今までは1対1だったが、そうじゃない傾
向があるということやな？
男：女が、やらせてくれそうな格好をしているか
ら、わざと。

女：そのように見るから悪い。
女：流行りやから、仕方ない。
男：見えてしまうから、仕方ない。
男：乳出したり、足を組んだりして……。
女：男は想像してるからやん。
男：真面目な格好をしている人に、やりたいと思うか？
男：男はエロいねん。
— どこでするのかな？
女：だいたい家で。
— 援助交際じゃないから、ホテルには行かないのね。自分の家で？ 相手の男の子の家で？みんな自分の部屋があるのね。そこへは、父親も、母親も入ってこないわけね。自分だけの、世界があるのね。
女：鍵がついてる部屋もある。お菓子とか、ご飯とか、買ってきて…、コンビニで…。
— 夜中は、帰らないの？
女：夜12時頃とか、帰ることが多い。
— 好きになったら『H』しているのね。いつも、うまく避妊できているということではないでしょうし…。
女：『お互いの子やったらええやん。』というノリで、避妊してない。
女：男が、『おまえの子やったら産んでもいい、育ててやる』と言うから…。
男：（男は）やりたいだけで。
— 避妊は、ほとんどしてないのが現実かな？ 妊娠してから、産むか、中絶かで迷うわけやな？ 中絶する場合の費用は？ 親には？ 学校にバレたら、退学になるやろう？
女：墮ろすお金は、お互いのバイト料でいける。
女：何か月かで、費用が違う。
— 費用は折半で？ 男が『責任をとる』とは言わないの？
女：友だちに、借りることもある。
女：親に言わなくても、中絶してくれる病院があるから…。20才以上という、してくれるので、親にバレずに済む。
— 女性の側からすると、もう絶対に『嫌や!!』と思うでしょ。男の人を憎む気持ちには、ならないのかな？ その後も、その人と、また、つきあうの？
女：次は、結婚するまでできないように、気をつけている人もいる。

女：『関係ない』と言われてから、男性恐怖症になっている子もいる。
— 男性は、Sexする時には『避妊はしなければ…』と、思いますか？
男：その時の気分で、付けたり付けなかったりする。
女：気持ちいい方を選ぶから…。
— 妊娠する期間は知ってるね。女の方は自分の排卵は知っている？
女：はっきりとは知らない。
— 自分の排卵は、知識として持っていないと…ね。排卵がないと受精しない。卵子は1日しか生きていないの。だから、妊娠は神秘的なこと。望まない妊娠は困る？ 困らない？
女：困る。
— そうすると、どうしなければいけないかを、自分らで考えなければ…。避妊が必要やな？ 保健所とか女性センターがあるのを知っている？
女：相談の電話番号は知っている。
女：友だちから聞いて、知っている。いろいろ聞かれるのがイヤなので、電話しない。
— 男の方は、Sexに関する情報は、友だち同士ですか？
男：最初は、連れから。
男：親友は必要。
男：自分一人では解決できない。
女：今なんか、小学生もやっている子がいる。小6とか…。早かったら小4ぐらいから…。
女：周りが、ませている。
男：テレビとかが…。
女：最近、中高生とかに、声かけにいってる。本当の年齢より、上に見える。
— 大人っぽく見えるのね。早熟しているのかしら？
女：親も若いから…。
女：親のことを真似する。
— 小学生は正しい知識はどこから…。
女：友達の年齢層が広いから…。
— 中学生のませた女の子は、男性は怖いぐらいかな？
男：年を感じる。
女：今の考えは、『つきあったらやる』というのが、つきもの。

— 今、女性に性感染症が多い。治療に行っている人は知らない？

女：3人ぐらい知っている。

女：笑いながら『性病になってん』と言う。一人は、病院へ行って、薬をもらって治療してる。

女：『そのうち、放っておいたら、治るやろう』と、言っている。性病と分かっているながら、彼とやっている。

男：最悪!!

女：どこからが、性病なのか、よく分からない。痒いだけなら…。不潔にしたからかなあ…。とか…。

— 病院へ行かれないのね。

女：よく分からないし。

— 普通の生活ではならない。細菌が原因だから…。

女：男の人が不潔だったら、なるのですか。

男：女が持っているかもしれない。

男：複数の人とやってるから、分からない。

— どんな病気か、どんな症状かということ、調べてみる必要がある。原因があるのだから、その原因をつきつめていかな、あかん。病気であっても、放っておく高校生が多い、ということやね。最後に、高校生がSEXすることについて、どう思うか？ また、どうあればよいのか？ その悩みは、どう解決すればよいのか？

女：好きな人とならよい。悩みは、妊娠…。

— それについての技術や知識はどうか？ 完璧に備わってるかな、両者は？ どう解決するの？ やるからにはどうあらねばならないか？

男：……

女：……

— SEXしか、コミュニケーションの方法はないのかな？

女：何もかもこの人と…。

女：買い物も、食事も、服装も…。

男：通り過ぎた人に、『格好いい』とか、言うと、女もキレル。

女：何でも言いあえて、分かりあいたい。

女：私だけが知っている。

男：満足してる？

女：自分の知らないことを、他人が知っていたら腹が立つ。

男：だから分かれる。ウザイ。

男：全部知っていたら、面白くない。

女：他の女とやっている男はいらない。

女：いっぱい、男をつくっておきたい。

男：周りからは、軽い女と思われている。

— SEXを前提に、どうつきあっている？

女：別に、先のことなど考えない。

女：今が楽しければいい。

男：先のことを考えていたら、しんどくなる。

男：いろんな人と出会うのがいい。

第3回

1. 男A：彼女ができたなら、お互いの同意のうえで確かめあうことになるだろう。

— そこからでてくる問題は？ 心配せんなん問題は？

男A：妊娠。

— うん。女の人が、からだの変調を訴えてきた場合には？

男A：僕は産んでもらってもかまわない。

— 育てられるの？

男A：親と相談して、学校に行きながらでも…。行きながらは無理と思うけど…。

— 今の日本では、学校へ行きながら子どもを育てることは、許されてないよな。必然的に中退という形になるよな。そしたら、働くの？

男A：親の反対はあると思いますが、やめて、お金を稼いでいきたいですね。

— その子どもは、結婚という形で産むわけ？ あなたたち2人の子どもとして認めて、籍も入ることやね。

男A：はい。

— それで、精一杯、育てていくということ？両方の親にも説得できるのやな？

男A：徐々に…。

— 徐々に…。住むところもいるで？ たちまち、お金がいるで？働くところ、あるやろか？

男A：土方でもして…。

— 土方しかないな。肉体労働やな。雨の日は土方なしや。雨の日は収入『ゼロ』ですわ。

男A：そんなん、ゆうていったら、キリがない。

— ものすごく、しんどいことやわな。育てることはしんどいことやで。

男A：でも、産んでもらいますね、僕は!!

— 産んでもらうの？

男B：お前、大工になりたい人と違うんか？ 夢、捨てやなあかんねで？

男A：でも、もう、できちゃったらしょうがない。

— 『できちゃった結婚』するわけやな。できない方法を、ちゃんと考えんなんな。

男A：好きやから、やるんやから…。

— では、次の人…。『私はこのように思います』と、言ってください。

2. 女A：私は、つきあっていて、からだを求められたら、やる。でも、子どもができないように、避妊しながらやっていこうと思う。もし、できたら、自分と相手の責任だから、産もうと思う。もし、産めへんからだになったら、いらんから、頑張って産ませてもらう。

— そしたら、2人の男女の関係は、Sex しかないんやろか？ 楽しむ方法ってのは？ 最終地がそれだったら、何も最終地まで行かなくてもいいんじゃないの？ 学生は…。

女A：でも、好きかどうかってというのは、『それで確かめあう』みたいな感じがある。自分で思ってるから…。

— それは女性が思ってるの？ 男が思ってるの？

女A：それは、みんなが思ってること。

— 好きということは、Sex をできるか、できないか？

女A：証拠になる。

男：男は、やりたいただけや

— 心の問題じゃないのね。『あなたは、私を信頼している』とか…。その確認しあう、一つの手段に、Sex を使っているだけの話？

女A：とりあえず、好きやったら、子どもできてもやっていける。親に相談するけれど、自分の人生やから、自分で決めていって…。それで親に反対されて、後悔したら、かなんから…。

— それって、愛情持ってるってことやな？ その好きって言う気持ちは、一生、変わらへんねんやろか？

男 そんなこと、考えてへん。

女A：産んでから、そんなんゆうても遅いけど、

産んだら、気持ちが変わってくる。子どもがおるから、一生懸命働かなあかんとか、できたら気持ちが、子どもがおるから、あれして、これしてと、絶対思うやん。

男：それ、60年間ぐらい続くの？

女A：それは結婚して…。

— そしたら、みんなは、好きな人ができて、Sex して、子どもができれば、学校辞めて、子どもを育てようという人が、多いのかな？ 高校というところを、そんなに簡単にやめて…、もう2度と勉強できへんねなあ。卒業して、いろいろと学べるところはあるけれど…。高校と言う機会を失うな？ それでも、いいということやなあ。

女A：いいっていうかあ…。

— そういう方法をとらないと、仕方がないということ？

女A：うん。

男：最悪やん。

女A：今までやったことを、責任とって、やっていかなあかんと思う。

— Sex にまでいく、高めあう道のりというのは遠いのかな？ よほど、お互いに…。育てていくわけ？ その男の人と、女の人との関係というのは？ 関係を高めあっているの、結果か？ そうじゃなくって、すぐ、そんなん、簡単にか？ すいすいとか？

男：難しいな。

女A：現に、そんなん、なっていないから、よけいに、わかれへん。

— あ……ん、そこまでいってへんから、そこまで高まってないんねんな？ まだ。

女A：そうですね。

3. 女B：私は、つきあって求められたら、やりません。それは、相手の気持ちを確かめるという意味もあるし…。近づけるような気がします。やることによって…。もっと、分かりあえるような気がするからします。もし、それで、妊娠しても、できたとしたら…、相手が、産んでもいいって言うんなら、迷わずに産みます。もし、相手が育てていけへんから、墮ろしてくれと言われた場合には、私は、産みたいと思っても、相手が、絶対にいらんと言ったら、…。望まれていない子だから、相手にね。親が反対して

も、説得できへんでも、そのときは、学校をやめます。

— もし、その男の人に、墮ろしてくれて言われて、中絶したとしますよね。またその人と、つきあいますか？ 同じ気持ちで…。

女B：別れはしない。

— 何らかの形で、継続していききたい？

女B：多分、つきあっていくと思う。

— つきあっていくと思う…。

女B：よけい、多分、離れたくない気持ちが起これると思う。でも、産ませてもらえるよう、説得はすると思う。

— もし、中絶せんなんかったら、お金が要るよね。お金は、彼から貰う？

女B：それは、彼氏にも出して貰うし、自分でも出すでしょう。

— あと何か、出てくる問題はないでしょうか？ それで、一件落着になるかな？

女B：病気…。もし、相手が病気もってたら…。もし、それでうつったら、多分、二人で病院にかかるだろう。治しますけど…。別に、好きでそういうことになっても、その人のこと嫌いになったりとか、一切、そういうことはない。

— はい、それじゃ、次、男性。お金がないという男性。果たして、どういう結論を持っていますか？ これに対して…。

3. 男B：僕は…。できたら、とりあえず、相手に聞いて、墮ろすか、墮ろさないかを聞いて…、墮ろすと言うと…、墮ろします。産みたいと言ったら、みんなで話し合いになって…、多分、親に言ったら、ポコポコにシバかれる。両方の親に。

— うん。『何ちゆうことしてくれたん』ゆうて？ それは、『すいません』と謝るの？

男B：謝って、『本当に、シバかれるほど好きなのか？』という話になる。

— 『好きだ』と言ったら？

男B：好きで、好きでたまらなかつたら、今度はお金がない。

— そうやねえ。お金出してくれはんの？

男B：出してくれないですよ。

— 要するに、産めないということやな？ あなたは。

男B：産みたいけど産めない。

— 産みたいけど、産めない。そうすると、必然的に、どうせんなんかいというのは？

男B：墮ろさなくてはならない。

— 墮ろさなければならぬ。墮ろすのも、お金いるで？

男B：それは、自分のものは何も買わないで、一生懸命バイトして…。

— バイトで稼ぐの？ 墮ろすお金を。

男B：そうですね。

女B：産めへんからだになったら…。産めへんからだになって、責任はとっていきけるの？

男B：産んでもとれへんで。

女A：でも、産めへんからだになったほうが、責任とるのは重大じゃない？

男B：産めへんからだにしたなら、もう、卒業と同時に結婚する。

女A：そう思うんやったら、産んでも一緒やん。

男B：違う!! 俺ら二人やったら、どんな、まずい飯でもええやん。子ども、おんねんで…。子どもに、まずい飯は、かわいそうや。

女A：そう思うたら、働いたらええやん。

男B：働けへんやろ、高校では。やめんなんねんで。

女A：別に、妊娠して、バレたら、絶対やめやなあかんことになるやん？ 墮ろしたって…。

男B：バレる方がおかしい。

女A：女は、確実にバレるやん？

— バレへん場合もあんのちがうの？ おなか大きくなって、分らへんじゃないの？

男B：できて、すぐ墮ろしたら。

女A：4ヶ月までやったら…。

— そう、そう、そう…。要するに、高校は卒業したいということやな？卒業はしとかんなあかんと言うことやな、あなたはな。そうすると、必然的に高校生のSexは、ある程度制約していかんなあかんということかな？

男B：いうてんねんけど、矛盾しているねん。

— 矛盾してるわな。矛盾しているけど、そこをつきくめていけば仕方がないことやろか？高校生で、ただ好きやからとSexに走るの、『考えていかなあかんあ』という気するねんな、ある反面、矛盾してんねんけど…。あんたも、そう思うの？

女A：やりたいというか…、やるけど…。産まれたら、産むけど…、できたら産むけど…。でも、ちゃんと、自分が育てていけるような環境があって、経済力がつくまでは、おいとこうと、最近考えてる…。

— 最近、思ってきたの？

女A：うん。

— 『そういう最悪事態を招かないようにしようと、思うようになってる』って、ことかな？気持ち的には…。

女A：とりあえず、『H』なしでは、つきあっていけないの、と聞いて…、と、思うようになって…。

— 『そういうことも相手に言うていかなあかんなあ』と、この頃感じてるということかな？いろいろの人の意見を聞いて？

女A：高一とか、高二とかは、好きだけでやってきたけど…。高校最後になって、ここまできたら卒業したいという気持ちの方が大きい。

— 先のことも考えられるようになってんなあ。

女B：バイトしても、4万円ぐらいしか稼がれへんから…。育てていくのには、25万、30万、かかるから、ちょっと、しんどい。

— しんどいということ、考えられるようになってんな。『そういうことを、お互いに言えるような関係を作りたいなあ』という気持ちを、持ち始めてるわな？

女B：前までは、『H』するのがいいもんやと思ってたけど…、それ以外のつきあい方というものもあるし、『H』だけが大事じゃないと…。

— 思えるようになってきたのね。はい、ありがとうございました。じゃあ、最後の彼、どうぞよろしく。

5. 男C：難しいなあ。

— 今、つきあっている人はいるのね？

男C：いや、いない。

— じゃ、想定して…。

男C：別に、『H』しても悪くないと思うけど、お互いの気持ちを分かりあえるなら。でも、それで、もしもできたら…。できる前に、できたら、こうこうしていこうと言えるけど、でも、本当にできたら、気持ちも変わってくると思う。できる前に…。

— お互いに話し合う？

男C：…

— 相手のいることやからな。一人の考えと違うから？

男C：できる前と、できてからの考えは、絶対、変ると思う。俺は。

— それを承知で、そういうことをお互いに考えた中で、どうかかわるかということ？

男C：…。

— やってみな、分からん？ できてみな、分らへんか？ 結果がでてこない、分からない？

男C：…。

男C：気持ちは変わるということですね。

— 『絶対、気持ちが後では変わってくるやろな』ということは、大体分かるようになった。予想がつくねんな、自分で。その予想にかかわって、『自分はどうか行動を選択するか』ということ？

男C：…

男C：もしもできたとしたら…、まず、隠してないで、怒られるの承知で、どちらの親にも知らせに行き…。そういう、好き同志で『H』やって…、できるということは、お互いの気持ちが好きということだから。それで『産みたいんです』という気持ちになって、両方の親に言いに行き、すぐに『産んでもいいです』という返事は、返ってこないと思うけど、お互いの固い意志があったら、その考えは折れないと思う。反対されても、親の人生ではなく、僕ら二人の人生やから、それは…、説得させたいですね。

— 育てる方向で、頑張るということやね。そういう高校生が多いのね、今は？ 男の人も、女の人も？ 『お互いに、育てていこうという高校生が多いですよ』と、いうことですか？

女：うん。

— 実際に『やめて育てている』というカップルを、知ってる？

女：3組ぐらい…。

— もう、やめて育てているの？

女：そうですね。

— 中学校の卒業式の時に、おなかの中にもういたんですよ。考えなしのことやったから、彼女のうちで一緒に居た。

— たいてい、そういう形やな。

女：男の子が一つだけ年上で、見習いみたいな形

で働いていて、給料が少ないから、家で…。

女：今は、近くのマンションか何か借りて、家賃とかは全部、親が出している。

— 自分の親に、援助を求めているということやなあ。

女：はい。

男C：避妊してたら 100%子どもができないということではないですよ。

— そうね。確率はな。

女：育てていける覚悟があるんやったら、やってもいいと思う。

女：育てていけへんねんやったら、責任も負えへんねんやったら、『やーんな』って、感じ。

— お互いに、そういう人間関係を作っておかな、あかんということやな、最初に。徐々に、つきあっていく中で、育てていきたいね、自分なりに。

女：自分もこれからは、そうしていきたい。

— ちゃんと、相手に主張せんあかんな、男の人にな。男の人も、分かってくれる人と、つきあいたい。

女：それを分かってくれへんねんやったら……。『H』目当てでつきあわれているみたいな感じに、とらえてしまうから…。話をして、分かってくれる人と、つきあっていきたい。

— 社会とか、マスコミに何か注文ない？ 『こういうのが、あかんやん』、『だから、あかんねん』とか…。『こういうのが、私たち青年期・思春期の気持ちを、ぐわーっと、やらすねん』とかってない？

女：コンドームとか、できへん…。避妊の…。これやったら『H』はできるで、という、そういうものもあるから…。あー、なんや。『これをやったら、子どもができへんねんやん』みたいな…。やる方向になる。

女：パイヤグラとか何か、そういうものも作るから悪い。

男：ちょっと、おいらのために、作ったん、ちゃうやん。

女：そういうものもあるから……。

男：ちゃう。おっさんらのために作ったんや。

— 避妊というのは、本来は、受胎調節にあるわけ。結婚している夫婦が、いつ頃子どもを産んで…。という家族計画の中で、避妊という道具があるってわけや。あんたらのために、あるわけではないねん。

学生のためにな。

女：薬局にも、売ってるから。

— 薬局に売ってるか？

女：コンビニにも売ってる。

— コンビニにも!!

女：自動販売機でも…。

— ああ——、そう!! 自分で買えるわけ？

女：すぐ手に入る場所にあるから、やりなさいといってるのと一緒。

男：でも、いざやる時、なかったらどうするねん。

女：ホテルとかでも置いてある。中学生とかでも入れるし…。

— 中学生でも入れるの？

女：入れる。

女：顔が見えないんで…。そういう部屋の、そういうところに入って、会計とかも、顔が一切見えない。

— 何で、そんな知ってるのよ…。世の中のシステムが…。風俗やな…。風俗が、やっぱり、だいぶ感化されているということやなあ。

女：こういう話してたら、自分が、『もう、やっていかんとこ』と思った。

女：怖くなった。話したら…。

男：怖くなったん？

女：自分では、責任とれへんというのを、はっきり、分かってきたから…。

— 私は、もう、結婚するまでは、そういうことは、やっぱり…？

女：うん。友だちに、流されている部分があると思うから…。

— じゃあ、こういう話を、よかったのかな？ そしたら、やっぱり、自分で考えることができて良かった？

女：見詰めなおす、きっかけになった。

女：こういう話を、せえへんかったら、多分、このままずっといって、もしかして、子どもも、できてるかも知れないし…。

女：学校も、やめることになってるかも、知れないし…。

— 学校で、こういう活動も、せな、あかん。授業の中でな。もつとな。

男：そう、そう。

— 知識ばかりじゃなくて。お互いに、コミュニ

ケーションを、意見を交流できるような、そういう授業も必要や、ということやなあ。

女：大勢とかで、なくて。

男：人、多かったら、無理や

— 少数グループで、いろいろ話をするってことも必要やって、いうことやなあ。どんだんなあ。

女：やっぱり、こういう話をして、正しい知識をもらったみたいなあ感じ…。

男：やるというムードになったら、そういうこと、考えることは難しいけど、こういうことをやったなあ、思い出し…。

— 思い出すんやなあ。

男：そんな無理やあ。

女：そういう人もいるし、そうじゃない人もいてる。

— そう。

女：後から思い出して、あの時、ああゆつとったから、俺、責任とらなあかんやんとか、思うやん。後から。

女：考え方が、変わった。

(完)

討論会記録 (つづき)

6. ・彼ができたなら(いるけど)、二人で楽しむ方法は？ 彼と遊ぶ時は、たいがい外で、ショッピングしたり、遊園地へ行ったりしてる。家で遊ぶ時は、『今日、こんなことがあったよ』とか、いろいろな話をしたり、ゲーム(ファミコン)したりしている。今の彼は、一緒にいるだけで楽しい。

・今、高3だけど、SEXして子どもができたらどうする？ 学校やめて、子どもを育てようと思ってる人は多いみたいだけど？ もし、できてしまったらどうするのか、その時にならなくては分からないけれど、やっぱり産みたいと思う。でも、学校だけは、ちゃんと卒業したいし、子どもを育てていく自信もない。とりあえず、責任を持って育てていけるようになるまでは、SEXをしたとしても、避妊したり、気をつけたいと思う。

・ その考えは、1年生の時と比べて変わった？

変わってない。

・ もし妊娠したらどうする？ お金とかの

ことも…。

お金のことは、一番心配。彼氏が働いているから、もし、産んでも育てていけると思うけど…。妊娠したら産む。墮ろすのは、やっぱりかわいそう。墮ろすのだったらSEXしないほうがましだと思う。考えると、『すごく難しい問題だなあ』と思う。

・ 実際には、子どもができて学校をやめて育てている子、知ってる？ また、それについて、どう思う？ ほかの学校の子は知ってる。一つ上の子で、高1の時子どもができて、学校やめて育ててる。旦那さんは、その人より一つ上で働いていた。でも、事情でその二人は別れて、子どもは母親が引き取ってる。この事で、子どもを産んで二人で育てていこうって決めたことは、それでいいと思うでも、結婚して1年も経たないうちに別れるのなら、結婚しないほうがいいと思った。

子どもがかわいそう。

・ 今、彼とどんなふうにつきあってる？ SEXのことも、結婚することも、親との関係も含めて…。ごく普通のカップル。けんかもするし、彼のことで悩んだりすることもいっぱいあるけど、今の彼氏は、まりこが本気でスキって思える人。最近、よく結婚の話とかもする。まりこが高校卒業して、2~3年経って、最低限のお金たまって、それでもお互いスキやったら『結婚しよなっ』て、いってかれてる。その時は、すごくうれしかった。まりこも、本気で『結婚したいなっ』て思ってる。親との関係は、まりこのパパと一緒に働いていて、仕事終わったら、ご飯食べて帰ったり、休みの日とか、まりこの家族と彼氏とで、キャンプとか、バーベキューとか、一緒に行ったり…。いい関係かなあ。逆に、まりこも、彼氏のパパとママにもよくしてもらってる。一緒に買い物に行ったり…。少し気は使うけれど、嫌われるより、全然うれしい。SEXは、正直やってる。でも、いろいろな話を聞いて、ちゃんとするようにしました。彼氏も、ちゃんとしてくれます。

Ⅲ 北海道長万部高等学校での若者

委員会—性に関する座談会—

A—2年男子 B—3年男子 C—1年男子

D-2年女子 E-1年女子 F-1年女子
T-司会 (養護教諭:長野)

T:「それではこれから性教育に関する座談会を行います。前々から話をしていたことですが、今日は皆さんの思いのたけを語ってください。一応、最初の方は私の方で司会をしていきたいと思いますが、準備プリントを配っていましたが、まず最初に『あなたは、今、高校生の抱えている性の問題には何かあると思いますか?』について、聞いていきたいと思うんですけど・・・」

T:「自己紹介しますか?」

A:「いやしくていいです」

T:「はい、次の例についてじぶんの意見、体験、友達と話している中での皆さんの意見・実際の行動面などについて大いに話していきましょう。」

A:「その前に何時に終わるの?」

T:「6時で2時間くらい考えているよ。」

T:「まず、男女交際でつきあうとすると、イコールセックスになるという傾向にあるということですね、そういうことについて皆さんそれぞれどう思うかを事前にみんな考えてきたと思うんだけど、聞きたいと思うんだけど、順番に聞いていこうかな。Aどう?」

A:「男女交際?イコールセックスじゃないと思うんですね、俺的に。」

T:「例えば?」

A:「イコールじゃないよね、ムードもあるし、ノリもちょっとあるよね。」

T:「ムードが必要とはどういうこと?」

A:「付き合ったらセックスではないよね。」(一同「え〜、あるよ!」「そんなのないっすよ。」)

T:「そういう事を聞いているんじゃないんだよね。」

A:「あ、すみません。」

T:「高校生の男女交際って、好きな男子と女子がいて付き合うよね、性教育の講演会でも言っていたけど、段階を踏んで交際を深めていこう。それでまずお互いにわかりあってということで男女交際が進んでいくべきじゃないかという話があるけれど、実際そういう段階を踏まないで、2、3回あっただ

けでセックスにいくということが実際あるの?ないの?どうなんだろう。」

A:「やっぱりあるんじゃないでしょうかね。」

T:「やっぱりあるの。」

A:「ぼくはないですよ。」

T:「はは! (うそつかないでー)」

A:「本当ですね、ねえB。」

B:「えー?」

T:「AやBの場合はあると、Dの場合はどう?」

D:「イコールセックスは違うんじゃない?」

T:「反論が出ました。」

C:「お互いの気持ちじゃないの?」

F:「イコールではないと思うよね。だってエッチしたいから付き合うわけじゃないんだよね。」

T:「じゃあ、高校生の男女交際ってどんなものだと思う、イメージ、実際に付き合ってみて。今のDの話じゃないけどセックスするから付き合っているわけじゃないんだよね。」

A:「そうすよね。」

T:「何で男女交際するの?先生も高校生のときからつきあったことあるけど・・・。」



C:「先生もやってたんでしょ?」

T:「先生高校生るときはしてないな。」

A:「うそ!」

T:「だからその人と結婚したんだよ。」

T:「そのことについてはどう?」

D:「エー、何で付き合うのか?」(一同:うーん)

T:「Bは?」

B:「えーみんなそうじゃない?一緒にいたいからじゃないの?」

T:「Eは?」

E:「一緒にいたいからというもあるし、あと付き合ったほうが、その人のことわかったりするから。」

T:「う〜ん、Fは？」

F:「やっぱ、一緒にいたいというのかな。」



C:「何でも話をする相手がほしいんじゃないの？」

T:「そうかあ、ほかの人に言えないこともねー。」

B:「Aは？」

D:「A正直なところどうなの？」

A:「僕？一緒にいたいから。」(一同笑う)

A:「でもなんで付き合うのと聞かれて困りませんか？」

C:「わかんねえよ。」

A:「付き合いたいから付き合うんだよね。」

B:「先生はなんでつきあうの？」

T:「だいたい昔の話だからなー。」

A:「欲しいからでは？」(一同爆笑)

T:「ねえ、ちょっとまじめにやろうね、先生まじめに話すんだから。」

D:「A乱してるー。わけわかんない。」

F:「これボツになるんじゃないの？」

T:「そのままテープおこしするよ。」

E:「まずいんじゃないの？」

T:「人の話はいいのよ。いや、私は好きだから付き合ってた。私は岩田さんと長野君に付き合ってくれといわれて、“いいよ”と行って、つきあった。」

D:「えー、婿殿？えー婿なんだ。」

T:「うんそう。Aは？もう少し突っ込んで話し聞こうかな。Aは付き合ったことはあるのかな？」

A:「ありますよ。」

T:「何回くらい？」

A:「4回くらい。」

T:「はじめて付き合ったのは？」

A:「中1のとき。」

T:「中1の時から今までで4回。」

D:「初めてやったのは？」

A:「やったのはあれだよ、中3の時だよ。」

T:「付き合ってた何人目の人？」

A:「3人目の人。」

T:「その3人目の人とは、なぜそういう関係になった？」

A:「関係になったってねー、その表現のしかたよくないと思うんだよね。何でなったって、うん、ムード。」

T:「やっぱり好きになった。」

B:「でも、ムードって言われてもいやじゃない？」

T:「ムードって言ってもいいかげんに感じる。」

A:「ムードプラスやっぱあるっしょ、なんかこう。」

T:「性的な欲求ですか？」

F:「ムラムラ。」

A:「そりゃないよ、やっぱり思春期かな。」

T:「じゃあ、Eはどう？何人と付き合ったかな？でも、話せない話はしなくてもいいんだよ。」

E:「ううん、全然。今二人目のの。」

T:「本当？で、初めて付き合ったのは何年生の時なの？」

E:「中3。」

T:「うーん、中3ね。今二人目で初体験の話はできるかな？」

E:「うん、できるけど・・・中3。」

T:「中3のいつ頃(何月ごろ)？」

E:「うーん10月だよ。」

F:「うーん、そうだね10月ぐらいだったね。」

T:「そう、わかり合っているんだね、付き合ってからどれくらい？」

F:「付き合う前なんだー、やられたって感じなんだよね。」

T:「Eの初体験？それってひどくない？」(口々に“本に載ってるよ、体験談で・・・”“「私はやられました」ってね”“えーっ”など)

T:「それでEはどう乗り越えたの？」

E:「わかんない。でもその後その人と付き合っちゃったから。」

T:「あ〜あ、ふーんそうか。じゃあ嫌いにならなかったのか。」